

## 平成 31 年度学校教育自己診断の分析

### 【総論】

○教職員の努力の結果、生徒の授業規律及び基本的な生活習慣の確立など、生徒の学校生活の肯定感は高くなっている。

○学校教育自己診断の提出率は、生徒は H30 年度とほぼ同等の 96.5%であった。保護者は H30 年度の 45.0%から 57.3%に増加した。教職員は 100%であった。

○生徒においては、ほぼ全ての項目で肯定感が増加しており、特に生徒指導及び学習指導、人権教育が大きく増加した。全教員が一枚岩で生徒指導、学習指導に取り組んだ結果であると考えられる。地域連携の項目について減少しているが、授業・部活動等での地域連携については活発化しているため、さらに魅力のある取り組みを創出する必要がある。

○保護者においては、全ての項目で肯定感が増加しており、特に地域連携と情報提供が増加している。学校ブログやケータイ連絡網で毎日、学年から情報を配信している効果の表れであると考えられる。

○教職員においては、3分の2の項目で肯定感が減少した。増加した項目は、教育相談と情報提供である。

### 【学習指導】

○生徒においては、8項目中5項目が増加し、平均も 4.3%増加した。特に、「授業規律」が 78.1%と昨年度より 9.9%増加している。学校をあげての授業規律を大切にしている取り組みの結果である。「授業の工夫」、「学習評価」についても増加しており、教職員の日々の取り組みが生徒達に良い影響を与えていることを

示している。

○保護者においては、全ての項目が増加し、平均で7.8%増加した。「授業規律」が72.9%と生徒と同様に昨年度より増加している。「興味・関心のある授業」、「授業のわかりやすさ楽しさ」、「授業評価」も増加しており、授業の様子が生徒を通じて保護者に伝わっているためと考えられる。

#### 【生徒指導】

○遅刻の激減、頭髪・服装違反者の激減、授業規律の確立がなされ、生徒たちは落ち着いた雰囲気の中で学校生活をおくることができている。

○生徒においては、全項目で肯定感が増加しており、平均も6.9%増加した。特に「基本的習慣の確立」、「協力した生徒指導」、「いじめへの対応」の項目が大きく増加しており、日々の取り組みの積み重ねが反映されている。

○保護者においては、ほぼ全ての項目で肯定感が増加している。今後も本校の生徒指導の方針について保護者の理解と協力を得ながら生徒指導に取り組んでいく必要がある。

○教職員の生徒指導に関する肯定感は全体的に昨年度より増加した。特に、「外部機関との連携」、「いじめ対応」、「問題行動防止の早期指導」が大きく増加している。生徒・保護者の結果からもわかるように、教職員の日々のきめ細かな対応が示されている。今後は、「中退防止」についてより取り組んでいく必要がある。

#### 【情報提供】

○生徒・保護者・教職員において、増加した。学校ブログの開設等、情報発信の強化が評価されたと考えられる。